

令和6年度
学校関係評価委員評価報告書

松江総合医療専門学校
学校関係者評価委員会

日時 令和7年6月12日(木)

【学校関係者評価委員】 5名（敬称略）

令和7年4月1日現在

医療部門	小林 央	島根県作業療法士会 会長
医療部門	荒瀬 朋子	マザリー産科婦人科医院 助産師
企業部門	松浦 幸嘉	しまね信用金庫 事業支援部 部長
企業部門	永島 有	社会福祉法人 みずうみ 事業支援室室長
地域	田中 令子	地元代表（大野地区）

《令和6年度事業概要》

令和6年度は、4月4日入学式を挙行し、新学期がスタートした。

【教育】

新入生には入学前課題を実施し、入学前から医療に触れる機会を設け、授業への導入をスムーズにしている。また、令和6年度は、全学科1年時の早期の段階で病院見学を実施した。目指す職業の医療現場を見学することでイメージ化し、モチベーションの向上に繋げた。

講義内容については、医療業界のニーズにも対応できるよう、内部教員だけではなく、外部講師を招き講義を行っている。科目の特性はあるが、小テスト、グループワーク、演習などを工夫しながら理解を深める講義を行っている。臨床実習・臨地実習については、自宅から通える実習地を確保し、実習生に心理的・経済的負担のかからない状況ができています。また、実習先には本校の卒業生も従事しており、その存在が実習生の負担の軽減に繋がっている。その他、読解力向上、社会を知る目的で、1年生には、デジタル新聞閲読も行い、「新聞の読み方講座」や「小論文講座」を実施した。

現在、適応障害、学習障害、うつ状態、高次脳機能障害などの診断を受けている学生が在学している現状がある。個別的なかわりや保護者との連携をとりながら対応しているが、休学や退学となるケースも発生している。できる限り、本人の思いをかなえるために、対応、連携の検討など必要と考えている。

国家試験対策としては、日々行う講義についても国家試験を意識した講義を外部講師にも依頼し、定期テストにも国家試験を取り入れるなど工夫している。また、学年度末には全国模試を実施し、国家試験に早期から取り組ませている。3年生になると、実習終了後毎日登校し、実力テスト、特別講義、個人指導、グループワークを行う。学校も20時まで開放し、スクールバスの送迎を行った。また、休日は学生会館を開放し、自主勉強ができる環境を作った。

令和6年度も大雨、大雪警報、JRの運休などにより、休校を余儀なくされたが、リモート講義を行うことにより、学びを止めることのない状況ができた。

令和6年度は理学療法学科、作業療法学科においては、第三者評価の一つである、リハビリテーション教育評価機構の評価認定審査において、リハビリテーション評価教育に必要な施設基準、カリキュラムを提供する優れた養成施設であると認定された。他に、作業療法学科では、世界作業療法連盟(WFOT)の国際的作業療法士教育の教育基準の条件を満たしていることが認められ、認定校として登録されている。

【学生生活・学生支援】

本校は高等教育の修学支援新制度の対象校である。令和6年度は多くの学生がこの制度を利用した。学生の経済的支援については、しましん医療技術者養成奨学金、学校独自の奨学金、その他奨学金もあり、貸与型、給付型の奨学金を利用することで、安心した学校生活を送っている。

4月から学生食堂の運営を社会福祉法人四ツ葉福祉会から社会福祉法人みずうみへ変更（学生食堂「カフェりん」）しリニューアルオープンした。週替わりメニューもあり、安価でおいしいと学生たちに好評である。7月には、学生たちの熱中症予防対策として、昼休みに冷たい水のペットボトルを支給した。

通学における無料のスクールバス運行も継続して行っており、突発的な体調不良者の送るも行い柔軟な対応をしている。

【学生募集】

令和6年度はSNS（ホームページ、Instagram、Twitter、ティックトック、公式LINE等）を充実させるために、イルカチームと提携し、主に学校Instagramの充実を図った。提携することにより、Instagramの質の向上と広報職員のSNSについての学習にも繋がっている。

学生確保に向けては、オープンキャンパス（以下OC）、出前OC（松江、出雲、米子、境港）を開催した。OCの参加数については、前年度を下回る結果となった。また、高校からの本校への見学会、学校ガイダンス、会場ガイダンスも積極的に行っている。その他の活動として、松江市教育委員会主催の高等学校教員対象の学校見学会等を開催し、当校の理解を深める機会となった。

入学試験については総合型選抜入学試験（以下AO入試）を8月3日からスタートさせたが、他校の状況を鑑みると、早期にAO入試を行う必要があったと考える。

【地域貢献・活動】

例年、看護学科の教員が、医療、看護、介護コースの高校生たちに出前授業を行っている。出前授業の一環として、本校に来校し、演習見学も実施した。

地域の健康フェスティバルにも学生、教員で積極的に参画している。9月は「しましんブレゼンツ“高田真希マルシェ”」（くにびきメッセ）にて健康測定コーナーのブースを出展し、好評であった。また、10月には、法吉地区の「ほっき健康福祉フェスタ」、大野地区の「おおの健康フェスティバル」に学生、教員が参加し、タオル体操や健康測定を実施した。地区社会福祉協議会との連携活動「なごやか寄り合い」にも参画し、地域の高齢者の方々とレクリエーションや体操を行う活動をしている。

ボランティア活動については、島根県障がい者スポーツ大会、施設のイベント等、ボランティア依頼があり、学生が参加した。

令和7年3月5日、松江テルサにて卒業式を挙行し卒業生を送り出した。

令和6年度も様々な活動を行うことで学生中心のより良い学校づくりを目指したが、学生数、休退学、国家試験の合格率など、課題はあるが、引き続き、教育の充実、学生の確保に邁進していく所存である。

以上が令和6年度の事業の概況である。

《自己評価》

1. 教育理念・目標

1) 学校の教育理念・教育目的・育成人材像は定められているか

本校は、地域の保健・医療・福祉施設などにおいて、人々の健康の担い手として活躍できる質の高い医療従事者を育成することを目指している。また、医療従事者に不可欠な思いやりの心を養い、医療技術を習得するための学校として存在することを目標に掲げている。これについては、学校のエントランスや学生便覧の中にも記載し、学生・保護者に周知している。

2) 学校における職業教育の特色は何か、明確になっているか

各学科の説明や教育の方法について、学生便覧にて説明している。

3) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等の対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

業界のニーズにむけて方向づけられてはいるが、多様化する学生支援や配慮の必要な学生への指導が必要となり、育成人材のバランスが今後の課題となっている。

2. 学校運営

1) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか

これからますます信頼される学校づくりにむけてコンプライアンス体制のさらなる充実を図っていく必要があると考えている。現在は運営会議、教務会議で積極的に取り上げているが、今後は、コンプライアンス体制にかかる委員会の立ち上げが必要と考えている。

2) 教育活動における情報公開が適切になされているか

SNSを積極的に活用するというにしている。令和6年度についてはイルカチームと提携していたが、令和7年度は荒瀬チームと提携してSNSの活用を勧めている。

また、理事長発行の「かわら版」で学校の状況を説明し、「医の道」で学生用にモチベーションが低くならないようメッセージを届け、「明日へのシナリオ」は教員に向けになっており、職員指導も行っている。このように、いろいろ局面に沿った形での周知をしながら情報公開を行っている。

3) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

教育の面については、全学生にiPadを導入しオンライン化によって資料等配信している。iPadにデジタル教科書をインストールし効率化を図っている。また、リモート会議なども行っている。

令和7年からWEB出願も始め、業務の効率化に繋がると考えている。

3. 教育活動

キャリア教育、職業教育とは、昨今重要視されており、小・中・高校生においてもキャリア教育、職業教育の授業がある状況で、私たち教員もキャリア教育に向けての研修がある状況である。キャリア教育とは、それぞれが生涯にわたり生きうる力、仕事をする力を養うことである。職業教育とは、例えば、理学療法士、作業療法士、看護師に就くために必要な知

識、技術を習得するというものである。主に専門学校は職業教育の対象となる。キャリア教育の仕事に向き合う力というのは、常に生涯必要だということが言われている。

- 1) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが計画・実施され、シラバス等にも明示されているか

本校ではOSCEと言う、客観的臨床能力試験、アクティブラーニング等、職業教育に繋がるカリキュラムをとりいれている。また、理学・作業・看護の各学科の教員が相互に学科介入し連携授業も行っている。毎年度、島根県理学療法士会、作業療法士会、看護連盟の協力を得て、キャリア教育や職業教育の一環としてそれぞれの専門家による、講話や指導の機会も設けている。

4. 学修成果

- 1) 就職率の向上が図られているか

就職率は100%である。令和6年度求人については、就職倍率が理学療法学科116倍、作業療法学科136倍、看護学科85倍であった。令和5年度は理学療法学科84倍、作業療法学科107倍、看護学科78倍で令和6年度の方が増加している状況がある。

- 2) 資格取得率の向上が図られているか

国家試験の合格率は令和5年度に比べると令和6年度が高い状況にある。しかし、100%とには達成出来ない学科もまだあり、今後も国家資格取得に向けてしっかりサポートしていきたいと考える。

- 3) 退学率の低減が図られているか

令和6年度については、令和5年度に比べて休学・退学が増えた状況にある。学科としては、担任制を敷き、教員同士で連携を図り、保護者とも連携をし、学生ひとりひとりに対応できる状況を作っているが、休学・退学が増えた状況になった。

改善策として今年度すでにスタートしているが、澤田校長とカレーランチ会を各学年のクラスごとに毎週水曜日に実施している。「かわら版」にも掲載しているが、カレーランチ会は新年度になり新しい勉強に慣れない中で少しでも楽しい状況を作り、校長と学生との距離を縮めることを図っている。学生も大変喜んでおり様々な話を校長としている。まだ全クラスの実施には至っていないが、現時点で5回実施している。また、全学科の1年生でスポーツ大会を実施した(令和7年6月11日)。これも4月に入学し、5月の連休も終わり少し疲れも出てくる時期なので、みんなで楽しい機会を設けようということで、海洋センターでスポーツ大会の実施となった。その他、なんでも相談室を今後設け、様々な形で学生の悩みを吸い上げるということを実施していく方向にしている。これらの改善策等を以て、早期に学生の悩みがわかり対応できる状況にしたいと考えている。

5. 学生支援

- 1) 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

昨年度については出前授業や職業教育の授業、学校ガイダンスに積極的に取り組ん

でいる。令和7年度は実際に高校ではどのようなキャリア教育が行われているかを、高校の校長を招いての教員研修を行う予定としている。また、学生への講義も予定している。

6. 教育環境

1) 防災に対する体制は整備されているか

令和6年度については、学生寮の避難訓練のみ実施。今年度については、学校全体についての避難訓練を実施することとしている。

8. 学生受け入れ募集

1) 学生の募集活動は、行われているか

令和7年度からすべてWEB出願で行うことにした。AO入試については令和6年度は8月3日からの実施だったが、今年度は6月15日からスタートする。AO入試の内容についても検討し、昨年度は国語と面接だったが、今年度は適正検査と面接という形式で実施する。適正検査とは15~20分程度で終了するもので、学生の特性がわかる検査である。そのほかの受験の種類については例年どおりで実施する。

2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

教育の活動についてはSNSで公開している。

また、広報係を中心に、各高校の進路の先生に向けて学校訪問を実施している。訪問のタイミングは、パンフレットが出来た時、新しい「かわら版」が発行された時、指定校推薦入試の枠が決まった時など、様々なタイミングで適宜訪問を実施している。訪問時に出身高校の学生状況や学校状況について報告している。高校を訪問すると、学生ひとりひとりの事を教師は覚えており、学生がどうしているか、高校時代の具体的なことまで記憶されていて質問される。広報係としても、学生ひとりひとりの状況を伝え高校の先生との関係構築を進めている。

10. 財務

1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

学生数も減少し、学校の財務基盤が安定しているとは言い難い状況で、学生数の確保や経費削減は喫緊の課題で、今年度も既に取り組んでいる状況である。

【学校関係者評価委員からの提言】

理事長が発信しているメッセージは非常に強いものがある。3年制の養成校の強みや目指す姿を明確に示され、学生に対しこれ以上できることはないというくらいの支援策をしているのではということを確認できた。オープンキャンパスの実施回数が多いため、教職員の勤務体制の工夫がされているのか。また、なんでも相談室はとてもうらやましいと思う。職能団体として、療法士と悩み相談ができるという機会があるので、くじけそうになっている学生の力になれないかと思う。

学生が集まらないことに関して、在校生にアンケートをとってはどうか。我々が考えている強みと学生が思っている魅力に相違があるかどうか、学生生活など、適宜学生の意見を聴いてみてはどうかと考える。

時代が変わり常に変化していく必要性を考え、今までと同じ方法での対応が難しくなっている。本校では経費削減という大きな変化や、広報のSNSの活用というところが、大きく変化していると思う。今後、他校（同じような形態）の運営状況を調べ、良いところだけを取り入れたらどうか。また、インターネットで調べるだけでなく、実際に見学し意見交換など行ってはどうか。

退学者を減らすことに関してSNSでできることで考えたことは、学校の様子を発信すること、例えば来年入学してくる高校生等が、この学校に入ったら来年こういう生活が待っているだろうと、イメージをしてもらうことで、入学後のギャップが埋められるのではないかと。オープンキャンパスで見せられない、授業の風景や実習に行った学生の生の声を伝えるなどしていくと、安心して入学できるのではないかと考える。

価値観が多様化する現代にあって、各学校段階を通じてキャリア教育が展開されている。一人一人の社会的・職業的自立に向けて、本日参加されている委員の中に金融機関も含まれている。お金の勉強を専門学校の中で実施する、生きていくためにも大事なことではないか、日本の教育ではお金の勉強があまり行われないので、学生のうちからそのような機会に触れていることも、大切ではないかと考えた。

これらの提言を受け、今年度に繋げていく。